

律法の授与と民の罪

2022年6月5日

使徒の働き 7章36～43節

出エジプト記 7・8～15・21 十の禍と出エジプト
15・22～18・27 シナイ山に向かう旅
19・1～24・18 律法の授与
32・1～35 金の子牛を作って拝む
ヘブル人への手紙 3章

序：モーセの生い立ち ミディアンへの逃亡 ホレブで神からの召命
エジプトへ帰還 兄アロンが共働 ファラオに請願するも拒否される
十の災禍 紅海を渡る シナイ山への途上（水、食物、反抗、戦い）
シナイ山（律法授与、十戒、契約、幕屋の規定）／偶像礼拝の罪

I. モーセとキリスト（救いの歴史の中で）の類比

- (1)神が民の救済のために立てられた
- (2)しかし、民は受け入れなかった（拒絶）
- (3)不思議なわざとするし（奇跡）を行った
- (4)「私のような一人の預言者」をイスラエル人の中から起こす⇒イエス・キリスト

II. このモーセ（この人）

- (1)神がモーセを指導者・解放者として遣わされた（人々は拒んだ）
エジプトからイスラエルの民を導き出すため
- (2)不思議とするしを行った
エジプトで （蛇 ↔ 杖） 十の災禍
紅海で 海を分け、乾いた海底を歩いて渡った
荒野で マナ、うずら、水、青銅の蛇
- (3)神の生きたみことばを授かり、民に伝えた（シナイ山、荒野の集会で）
神と人との仲介者（キリストの型）

モーセは、40年間ずっと、神の召しに応じて務めを果たした。

III. イスラエルの民の不従順

- (1)モーセに従わず、彼を退けた（彼を立てた神への反抗）
- (2)せっかく、脱出したエジプト（罪の国、奴隷の身分）を慕った、帰りたい
不信仰、高慢 ⇒ 神々（自分を神とするも含め）を求める

(3) 金の子牛を作って、真の神のかわりに拝み、楽しんだ

人が作った神	人を造った神
偶像	創造主
見える	見えない

モーセの不在の時 アロンを懐柔して、偶像礼拝（靈的姦淫）にふけた

民の言い訳（モーセが自分たちを置き去りに、行方不明） 使徒 7・40
アロンの言い逃れ 出 32・21～24 しかし、アロンが造った 同 35
モーセは悪人を除去、民のためにとりなす 同 25～34

IV. 主なる神のさばき、

(1) 神は彼らに背をむけた

(2) 神は彼らを放置した 彼らを罪に引き渡し、好き勝手にさせた、罪を継続させた

(3) 主に対して礼拝をしない（しても形式的）ことを指摘

偶像礼拝に屈服 モレク（アモン人の神）、ライパン（土星を神とする）

(4) 捕囚となるというさばき（後代）

北イスラエルは、アッシリアへ 南ユダはバビロンへ

V. 適用

(1) 私たちには聖霊が内住しておられる

すべてを教え、導き、助けてくださる／ただし、私達が求め、信頼するなら

(2) イスラエルの民が神に背き、偶像礼拝など罪を犯したのは出エジプト後

私たちも救いにあずかった後に、御国への旅の途上で諸々の罪を犯す

(3) 今日、もし御声を聞くなら、心をかたくなにはならない

罪を悔い改め、主に赦されることがなければ、聖化は前進しない

安息に入れなかったのは不信仰のためだった（ヘブル 3・19）とならぬよう

(4) 信仰者の聖化のため、恵みの手段として、主イエス・キリストは聖餐を制定

信仰生活のメンテナンス、リセットが絶えず必要

(5) 自己流、人が作った方法ではなく、神の言われるとおりにする（思い起こす機会

自力依存、神に信頼することを軽視・嫌悪

(6) 靈的・まことの礼拝を追い求める志を新たにする時（神の義と愛を覚える時）